
色情序願の奇妙な罪滅ぼし

青春太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色情序願の奇妙な罪滅ぼし

【Nコード】

N0875BA

【作者名】

青春太郎

【あらすじ】

ジヨジヨの奇妙な冒険の平行ワールドの世界

探偵『色情序願』の奇妙な罪滅ぼし

彼は何のために誰のために願いを叶えるのか？

これは恵まれなかった一人の男の物語

『探偵事務所 伝書鳩』（前書き）

ジヨジヨ好きで書いてみました。

下手くそですがコメントをくれると幸いです。

『探偵事務所 伝書鳩』

-. -. たった一度だけ大切な者を守ることができなかった男
がいた -. -.

-. -. そのことを悔やみ苦しみ悲しみ自らの人生全てをかけてそ
の罪を償っている男がいた -. -.

-. -. 男の名前は「色情序願」 -. .

-. -. 彼の罪滅ぼしの数々を私は話していききたいと思う -. .

『探偵事務所 伝書鳩』

一人の男がこの建物の前にたたずんでいた。

その男の身なりは絵に描いたような裕福な姿でパリッとしたスーツ
と高価な時計を身につけていた。

しかし、その表情は路上のホームレスよりも疲労していてその瞳に
光はなかった。

男は死人のような手つきで探偵事務所の扉を開けた。

室内はとても古い建物なのかあちらこちらにシミやら埃やら蜘蛛の巣があり人が働いているようには思えなかった。

「ひっ！」

男の目の前にいきなり女が現れていた。

「こちらにお掛けください」

女は恐ろしいほど無表情で一言告げると部屋の奥に消えていった。

男は戸惑いながらも椅子に座りいつの間にかおいてあったコーヒ―に口をつけた。

「あゝ、すみません。お待たせしました」

奥の部屋から出てきたのは短髪で眼鏡をかけた青年だった。

青年は男と向かい合うように座った。

「えっと今回はどういったご用件でしょうか？」

青年は手馴れた様子でメモをとる用意をした。

見た感じの年齢は17歳ぐらいだが、かなり大人びていた。

「警察の知人にここを紹介してもらったんです。どうしても頼みたい依頼があるんです」

男はしゃがれた声でまるで懺悔するかのように続けた。

「聞いた話ではどんな依頼でも完璧にこなす探偵がいるって」

「ああゝ、なるほど」

青年は苦笑いしつつ先程の無表情な女を手招きして呼んだ。

「『序願』さんは今どこに？」

「仮眠室に」

「お呼びします」

女は一言一言、淡々とした口調で部屋を出て行った。

「えっとあなたは探偵ではないんですか？」

「僕は助手をやっています。あの女性は秘書です」

青年はにこやかに答えながら椅子の周りの掃除を始めた。
二人の間に会話はなく、無言がこの空間を支配していた。

「お連れしました」

無言を突然打ち破った無表情の女は右手である男を後ろ向けに引きずっていた。「序願、依頼人です」

引きずられていた男は女の声にピクリと反応して後ろ向きのまま立ち上がった。

「これもどうも失礼を……」

その男こそが探していた探偵『色情序願』だった。

「『ジヨジヨ』とお呼びくださいお客様」

その探偵の瞳はこの部屋にいる誰よりも輝いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0875ba/>

色情序願の奇妙な罪滅ぼし

2012年1月2日00時49分発行